

原子力規制庁臨時ブリーフィング

- 日時：平成30年9月6日（木）17:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：大熊長官官房総務課長、武山監視情報課長、
古金谷安全規制管理官、村田事故対処室長

<本日の報告事項>

○司会 お待たせいたしました。それでは、本日未明に発生した地震による影響についてのブリーフィング、第2回目を開始させていただきたいと思えます。

資料についてはお手元に2種類お配りしております。「2018年9月6日胆振地方中東部で発生した地震による影響について（第2報）」、それから「北海道地震によるモニタリングポスト等の被災状況」、2種類の資料をお配りしております。ネットを御覧の皆様につきましては、準備でき次第、アップロードをさせていただきたいと考えておりますので、しばらくお待ちください。

それでは、総務課長の大熊から御説明させていただきます。

○大熊総務課長 総務課長の大熊でございます。

本日未明に発生いたしました、胆振地方中東部での地震による影響についての続報ということでございます。

本日、午前中、10時半に御説明をさせていただきましたが、その後に確認された情報、また、状況の進展等がございますので、そこを中心に御説明をさせていただきます。

資料でございますが、2種類のうち、後ろに第2報とあるほうを御覧いただければと思います。午前中にも御説明いたしましたように、地震による停電の影響で、泊原子力発電所の外部電源からの電力の供給がなくなりまして、非常用ディーゼル発電機が起動し、それにより冷却などが正常に行われているという状況でございました。

その後、確認された情報でございます。下線が引いてある部分でございますが、8時52分に泊幹線1号線、外部電源の3系統6回線のうちの1つの回線でございますが、こちらが復旧いたしました。さらに9時20分にもう一つの回線といたしまして、後志幹線1号線が復旧したということでもあります。その後、作業が進められまして、12時13分に3号機の復旧が完了し、12時51分に1号機の復旧が完了し、13時ちょうどに2号機の復旧が完了した。こういう状況が確認されているということでございます。

2枚目にほかの発電所の記載もございますが、そちらについて新しい情報は特にございません。

次に、モニタリングポスト等の被害の状況についても午前中に御報告を申し上げました。そちらについてのアップデート、状況の進展について御報告させていただきます。

資料でございます。まずUPZ内の部分でございます。こちらが午前中にも御質問を受けて御説明いたしました、緊急時の防護措置用等のモニタリングポストでございます。こちらの16時30分時点の状況でございますが、固定局21局のうち9局が停止しているという状況でございます。午前中時点で最大12局が停止しておりましたが、その後、3局が復旧しているということでございます。

なお、午前中の資料で12局が停電により停止をしたという記載がございましたが、そのうち1局は地震の以前から点検中ということで停止をしていたということでございます。訂正をさせていただきたいと存じます。

ということで、現時点で9局停止中でございますが、こちらについては現在、鋭意復旧に向けて作業をしている最中でございます。

次に、電子線量計60局については、新しい情報はございません。電送に遅れが発生しているものの、全局稼働しているという状況でございます、変化はございません。

次に、その下、北海道全域に関するモニタリングポストということでございます。こちらは平常時のバックグラウンドの測定用ということでございまして、緊急時対応のためのもではございません。水準局が10局あるうち、16時30分時点で5局が停電のため停止している状況になっております。こちらも午前中に御説明をした時点で最大で9局が停止しておりましたが、その後、4局が復旧をし、現時点では5局が停止をしている状況でございます。こちらは最新の状況をアップデートさせていただきました。

補足説明がでございます。

○武山監視情報課長 監視情報課長の武山です。

モニタリングポストのほうです。午前中、北海道全域というところについてUPZ外とたしか書いてあったと思うのですが、実は1個のポストだけUPZ内のものがあつたので、訂正させていただきます。そういう意味で北海道全域という形で今回、整理させていただきました。

それから、電子線量計のところの一部電送遅れと書いてありますけれども、いわゆる電送なので通信網。これは通信網の状態によってモニタリングポストの値の電送もそれによって左右されますので、今後、停電とかの関係でどうなるかというのが見えなところもありますけれども、電送についてそういう不安定な状況になるかもしれませんが、基本、現地のモニタリングポストは今、復旧に向けてやっていますけれども、ここはきちんと測定がされるようにしたいと思っておりますし、そうなります。

もし仮に電送が、見られなくなってしまうということがあつたとしても、きちんと測定データは残りますし、必要があれば現地に行って確認することができるというふうになっております。

以上です。

<質疑応答>

○司会 それでは、皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属と名前をおっしゃってから質問をお願いします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。タケオカさん。

○記者 共同通信のタケオカと申します。

モニタリングポストで、地震以前から点検中の1局というのは、今は復旧しているのでしょうか。していないのでしょうか。

○武山監視情報課長 これはまだです。残る9局の復旧の中に入っているところです。まだです。今、データ伝送について確認をしているところでございます。

○記者 最大12局の最大は、どういう趣旨でしょうか。

○武山監視情報課長 これは、まず12局停止していたということで、それを表していきまして、それからだんだん今、復旧を重ねていって、3局復旧しているので、今9局ですということなので、午前中の状態で12局でしたということを行っているだけです。

○司会 御質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。それでは、オシドリさん。

○記者 L. C. M. PRESSのオシドリです。よろしくをお願いします。

この3幹線とも外部電源が使えなくなった件ですが、電力供給系統の図面を見ますと、後志幹線などは東北電力への北本直流幹線とつながっているのですが、なぜ北海道電力の停電が影響、それだけが影響したのか分かりませんが、こちらの東北電力から後志幹線などを通じて泊に行くルートというのは生きていなかったのでしょうか。

○古金谷安全規制管理官 実用炉監視部門の古金谷と申します。

我々は原子力のサイトのほうの規制をしております、外部電源、これは系統のコントロール、制御ということになりますので、申しわけないのですが、詳細は我々としては承知得ないところがございます。申しわけございません。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

非常用ディーゼルが復旧しなかったとしても、7日間はおつということだったのですが、もしお分かりになれば、これが万一、使用済み燃料プールだけでなく原子炉などほかの部分の冷却が必要だった場合、これは電力消費量は何日分ぐらいもつ予定だったのでしょうか。

○村田事故対処室長 規制庁の村田でございます。

元々7日間と言っているものが、通常の動いている状態を想定したものの7日間と申していますので、そこは7日という形で理解いただいて、今回は使用済み燃料プールだけが対象なので、もう少し7日よりは延びる感じになっていると思います。

○記者 分かりました。ありがとうございます。再稼働していたとしても、7日はもったということですね。

○村田事故対処室長 そのような理解で結構です。

○記者 ありがとうございます。

結局、なぜ外部電源が使えなかったか。これは北海道電力の停電が影響してしまっていて、東北電力から引いていた電源がなぜ使えなかったかという、この調査などはどこの部署がされますか。何といたしましょうか、新規制基準の対応で外部ルートの補強をしたにもかかわらず、今回、東北電力からのルートも使えていなかったということなのですが。

○古金谷安全規制管理官 外部のそういった系統の制御といいますのは、我々が規制しているものというよりは、むしろこれは電力の供給を見ている立場の政府組織だと思っておりますので。

○記者 エネ庁ということですか。

○古金谷安全規制管理官 エネ庁なのか、経済産業省の中にある電気の供給のネットワークを監視している委員会組織、済みません、名前は忘れましたが、ございますので、そういったところかと思うのですけれども、我々のほうはあくまでも外部電源の信頼性を高めるということで多重化するとか、本数を増やすとか、そういう形での規制要求をしておりますので、さはさりながら、外部の電源でございますから、どうしても線は多くして多様化していますけれども、同時に落ちることも当然想定されますので、あり得ない話ではございません。今回もありましたので、それであっても安全に必要な電源を確保するというので、ディーゼル発電機を所内に設けておりますので、そういった観点で必要な電源を外部の電源がなくなったとしても所内で確保するというので、今回もそれがうまく機能して7日間に至らずに外部電源も復旧したということと我々は理解しております。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

最後にしますが、例えば福島第一原発は、東京電力と東北電力の外部電源の2ルートを持っていました。なので北海道電力も北海道電力と東北電力の、それが多重化だという意味と理解していたのですが、特に規制庁としてはそういう意味ではない。そのルートだけの多重化だったということですか。

○古金谷安全規制管理官 基本的にはルートの多重化、多様化ということで考えておりますので、それがどこの会社の持ち主のものであるかというところについて我々問うているものではございません。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 それでは、シゲタさん。

○記者 NHKのシゲタです。

確認なのですが、後志幹線が復旧したことについて連絡があったのはいつですか。

○村田事故対処室長 これは15時02分です。

○記者 12時過ぎに一度、我々に公表したときには、泊幹線のみ1系統1回線が復旧して、3号機復旧という話だったと思うのですけれども、ここに後志が入っていなかった理由は

何か聞いていらっしゃいますか。

○村田事故対処室長 我々が配信した段階では、後志の状況が我々のところに届いていなかった状況ですので、記載はしていないという状況でした。その情報の連絡が遅かったものですから、そこはしっかり情報共有するようという形で北海道電力には指示をしているところです。

○記者 確認なのですけれども、12時20分前ぐらいに一度、3号機の復旧と泊幹線の復旧について同時に入ってきて、一度、遅過ぎるということで注意、指示をされていると思うのですが、改めてまた注意、指示をされたということでしょうか。

○村田事故対処室長 その指示は一度だけでございます。

○記者 指示を出して、後志の情報が6時間近くたってから来るというのは、どう見ればよろしいのでしょうか。

○村田事故対処室長 15時にもらっていますので、指示を出してから3時間後ぐらいだと思います。

○記者 9時20分に復旧してから15時にその情報が入ってくるというのは、指示が出た後、おっしゃるとおり指示が出てからは3時間後くらいですけれども、どう見ればよろしいのでしょうか。

○村田事故対処室長 元々これは8時52分の泊の幹線もあるのですけれども、この情報も我々は入手するのが遅くなっていたというのがございますので、しっかり情報の入手を我々はしたいということで、共有を迅速にこなさいという指示を出して、その上で整理をして北海道電力から連絡があったのが15時と認識をしてございますので、我々から指示を出した上で整理をした情報が来たことを認識しています。

○記者 最後に改めて、北海道電力の情報伝達とか情報共有の遅さというのをどう評価されているか、改めてお伺いさせていただきます。

○村田事故対処室長 当然、幹線の復旧というところはものすごい関心事項だと思っておりますので、それが同じように8時52分あるいは9時20分という形で復旧しているのであれば、それは早急に我々のほうでも情報を共有していただく必要があったと思っておりますので、それを踏まえた上での迅速な共有をするようという指示を出したことを認識しています。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 それでは、スズキさん。

○記者 毎日新聞のスズキです。よろしく申し上げます。

モニタリングポストの復旧の状況なのですけれども、少しずつ今、復旧しているように見えるのですが、今後の復旧のめどは見えているのですか。

○武山監視情報課長 特に固定局、UPZの中のものですが、これは可搬型のモニタリングポストを代替で使うということで、今それを置いて電送してもらうことを順次やっています。

すので、そう時間がかからない形で全て置かれると思っています。そういう意味ではまだ全部ではないですけれども、そんなに時間はかからないと思います。まだどのくらいの時間がかかるかは今、現地でやっているのだから分かりませんが。

○記者 本日中には難しいということですか。

○武山監視情報課長 そのくらいにはなると思います。

○記者 分かりました。

○司会 ほかに御質問のある方いらっしゃいますでしょうか。カンダさん。

○記者 時事通信のカンダです。

午前中にもお伺いしたと思うのですが、モニタリングポストの件です。

結局、非常用電源への切りかえというのは、今の段階ではできない、つまり可搬型をかわりに置いて代替で使うという方法でやっているのは、何かこれは意味があるのですか。つまり非常用電源への切りかえができれば別に可搬型を持っていかなくてもいいと思うのですが、そこはどういうあれなのですか。

○武山監視情報課長 それもありますが、非常用電源は油を使うものですから、油の供給がなかなか今どうなっているか分からないというのもあるので、取りあえずは今、可搬型が置いてすぐに使えるものですから、まずそれを持っていくということを優先されていると聞いています。

○記者 そうなると、もっと大規模な深刻な事故の際とかも同じようなことは想定されるわけで、モニタリングポストの電源が喪失した場合のあり方というのは考えたほうがいいと思うのですが、その辺はどういうふうに。

○武山監視情報課長 我々もそこは認識してまして、電源の強化は実は順次全てのポストに対してやっているところなので、なかなかまだ途上のところもあつたりとかしているところがあると思いますので、そこは今後も十分やっていきたいと思っています。

○記者 別の話で、北海道電力の情報共有の話なのですが、午前中の会見の中では現地の検査官も情報収集しているということだったのですが、復旧の情報が入ってこないというのは、せっかく現地にも人がいるのになかなかそれが見られないというのは、どういう事情があったのでしょうか。

○古金谷安全規制管理官 現地に行っていたのが2人ということもございまして、詳細は本人たちに今、確認しているわけではございませんけれども、いろいろなところ、現場にも行ったりとか、そういうことをしていたということもありますので、あとやはり通信環境が悪くて少し連絡できにくい環境にもあつたと聞いておるのですが、そこは一つ、我々としても課題かなと思っております。さはさりながら、まずは情報をもらうというのは北海道電力から我々にというところが正規のルートではございますので、そういうところでの遅れは我々としてもしっかりと指導していきたいと考えております。

- 記者 当然、大きな関心事の一つなので、外電の復旧状況というのは順次というか、何時間に1回か30分に1回か分かりませんが、問いかけみたいなのはしていたのですか。
- 古金谷安全規制管理官 テレビ会議システムをつないでコンタクトを北海道電力としていましたので、その都度といいますか、常時つないだ状態でありますので、状況がどうなっているのかというのは常に確認をされていて、新たな情報が入るとすぐに共有するよという話はしておりました。
- 記者 今の段階で、北海道電力がそういった回答がきちんと、そういった情報共有ができなかったことについて、どういう言いわけというか説明をされているのでしょうか。
- 古金谷安全規制管理官 そこは北海道電力もいろいろばたばたしていたのは事実だと思いますけれども、我々と相對しているブースがあるのですが、そののところにしっかり情報が入ってきていなかったのではないかと考えております。
- 記者 ちなみに、そういう状況というのは今、泊で進めている審査などにも影響してくるのでしょうか。社内の情報共有体制がしっかりしていないというのが、保安規定とかのあれにもかかわってくるような気もするのですけれども。
- 古金谷安全規制管理官 どちらかという今回は防災の観点かなと思うので、例えば事業所防災訓練というものを毎年やっていますけれども、そういうときに電力が持っている即応センターと規制庁のERCの連絡、共有がどれぐらいできたかというのは一つの評価の指標にもなっている部分でございますので、そういった観点からすると、そこはしっかりやっておくべきところだと思います。
- 司会 タケウチさん。
- 記者 共同通信のタケウチです。
- 現時点で対応方針などで決まっていればお伺いしたいのですが、北海道電力の電力の供給はしばらく1週間ぐらい不安定になるやに経産省から発表があったようですが、規制庁では不安定な電源で泊も運営される中で、どのような監視体制をこの先、当面作られていくのでしょうか。
- 村田事故対処室長 我々は通常、日々、宿直の体制をしいているところがございますので、当然、平日、日中であれば我々は事故対処室に連絡が入ってくることになると思いますし、土日、休日ということであれば、宿日直のほうに連絡が入ってきて、そこから対応をとっていくという形になろうかと思えます。
- 記者 今のテレビ会議でやっているようなERCに近いような対応という、その体制はある程度維持されていくのですか。
- 村田事故対処室長 必要に応じて宿日直がそういうコンタクトをとることもできるように日々訓練をしておりますので、必要があればテレビ会議をつなぐということも宿日直でやろうと思っています。

- 記者 外電復旧でもって何か体制が変わったという話ではないわけですか。
- 村田事故対処室長 元々宿日直の体制をしいている中でやっていますけれども、今回、大きな地震があったのもあるので、元々我々のほうでも情報収集強化体制をしいてやって、これは別に今回があったからということではないです。元々大きな地震があった場合には情報の発信を強化するようなことをやっていますので、その際には宿日直に加えて、もう少し規制庁職員が参集するような形態をとっていますが、今はそこはまた同じような地震があれば、そういう体制もとりますけれども、基本的には宿日直の体制でふだんと同じような形で体制をしいていくということかなと思っています。
- 記者 ありがとうございます。
- 司会 ほかがございますでしょうか。
- それでは、2回目でシゲタさん、タケオカさんの順番で。
- 記者 何度も済みません、NHKのシゲタです。
- 大熊さんにお伺いしたいのですが、午前中、安全上の観点で問題ないという評価をされていましたが、外部電源が復旧して改めて今回の事態を安全性の観点からどう評価されているか、お伺いしてもよろしいでしょうか。
- 大熊総務課長 午前中にも申し上げました。今回、外部電源からの電力供給がなくなったわけですが、先ほども話が出ていましたように、ここはまだ新規制基準に基づく強化は行われていないわけですが、電源の強化ということは実質的なものを含めてとられている。そうした中で非常用ディーゼル発電機が起動して正常に冷却が行われていた。それに伴ってといいますか、その結果、当然モニタリングポスト等の異常も出ていないということで、安全上の観点ということ言えば、問題になるようなことは生じていないという評価は変わりません。
- 司会 それでは、タケオカさん。
- 記者 共同通信のタケオカです。
- モニタリングポストで細かい点を1、2確認したいのですが、先ほど復旧について本日中午くらいにはという話がありましたけれども、これは可搬型を置くことで機能を代替することが本日中午くらいにできそうということなのですか。
- 武山監視情報課長 そうです。
- 記者 これは停止したものを動かすというのは、明日以降になりそうなのでしょうか。全部が復旧するのは。
- 武山監視情報課長 そうですね。そこはまだ我々のほうでも現地から情報を得られていないので分かりません。明日以降になるのだらうと思います。
- 記者 地震以前から点検中の1局は、原因が分かれば教えてください。
- 武山監視情報課長 これも原因は私のほうでは把握していません。何かメンテナンスの

関係だと思えます。

○記者 定期点検とかトラブルとか、その辺も入っていないですか。

○武山監視情報課長 トラブルですか。

○記者 定期点検でトラブルの有無に関係なく定期的に点検に入っていたものなのか、それとも何かの故障とか。

○武山監視情報課長 多分、検出器か何かの故障ではないかと思えます。そういうものについて修繕をしているということだと思います。具体的な内容は分かりません。

○記者 分かりました。

別件で後志幹線の復旧の9時20分が規制庁に報告があったのは、先ほど15時02分というお話でしたけれども、別の担当の方のお話ですと、私の聞き間違いだったらあれなのですが、15時16分と聞いた気がするのですけれども、正確にはどちらでしょうか。15時02分でもよろしいのでしょうか。

○司会 広報室長の関です。

北海道電力からFAXの時間として発信されたのが15時02分でございます。規制庁で最終的に電話で確認をして受けた時間が15時16分でございます。

○記者 15時02分は北海道から規制庁にFAXが入ったのが。

○司会 入ったというか、そここのところに15時02分現在と書いてあるのがその時間です。

○村田事故対処室長 紙を書いた発信時間という認識かと思えます。

○記者 それを受けて規制庁が電話で北海道電力に内容について確認したのが15時16分。

○司会 はい。

○記者 分かりました。

○司会 それでは、カワダさん。

○記者 朝日新聞のカワダと申します。

残りの4回線なのですけれども、これは復旧の見通しとか聞いていらっしゃいますか。

○村田事故対処室長 そこについてはまだ見通しについては立っていないと聞いていますので、まだ分かりません。

○記者 実はもう復旧しているということは、今日はないですか。

○村田事故対処室長 私が出てくる前は、復旧はしませんでしたので、そこは先ほども、系統のところがどういうふうになっているのか我々は把握しておりませんので、復旧がいつになるのか分からないということになるかと思えます。

○記者 この2系統は、例えば火力とか水力とか、どこの電源の回復で復旧したかというの
は分かりますか。

○村田事故対処室長 その辺のところは我々は把握していません。

○記者 電源の安定性というか、そういう意味では水力なのか、どこの火力なのかによってもまた変わってくるかと思うのですが、そこは把握しない、聞かないという形ですか。

○村田事故対処室長 そこは系統をどのように考えてやっているのかというところになるので、先ほどお答えを古金谷からしましたが、それによるところがあると思うので、我々はそこについては確認していません。

○大熊総務課長 蛇足でございますが、先ほどから御説明しているとおりですけれども、そもそもここは新規制基準に基づく許可はまだでございますが、新規制基準に基づく規制の考え方は、外部電源についての多重化は求めておりますが、その上で外部電源がなくても電源がしっかり確保できるようにサイト内での電源を多重化して強化するという考え方でやっているということでございます。外部の電源の詳細について求めているということではございません。念のためでございます。

○記者 あと、2回線があつて、それぞれから既に供給をもう受けているのですか。まだ泊幹線のみなのですか。

○村田事故対処室長 2回線から受けています。

○記者 3号機それぞれにという感じなのですか。もとの体制に戻っているということなのですか。

○村田事故対処室長 回線としては2回線ですけれども、所内の体制としては発災前の体制というか、状況に戻っているということです。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、この会見については以上とさせていただきます。

以後でございますけれども、何か別な情報が入りました場合についてはメールでお知らせするという形をとらせていただきたいと思います。また会見が必要な状況になりましたら、改めて会見の開催をお知らせするという形で進めさせていただきたいと思います。

それでは、本日の会見は以上とさせていただきます。お疲れさまでした。

—了—